

## 北海道支部における活動

日本化学会の7支部中で北海道支部はもっとも会員数の少ない支部である。しかし、主要な大学は、札幌・函館・旭川とその周辺に集中しているものの、小中高校は北海道という広大な地域に分散しており、これが、教育機関相互の連携に大きなハンディとなっている。このハンディを如何に克服して、連携を深め、化学教育を進めていくかが、当支部の重要な課題である。

さて、このような中での北海道支部化学教育協議会の16年度の活動について紹介する。

(1) 北海道地区化学教育協議会は、北海道地区の小中高校・高専・大学等の、初等から高等教育機関の相互の情報交換と化学教育に関する連携を深めるために、毎年、夏季に行っているものであるが、16年度も例年通りに開催した。例年、北海道外の先生方に化学教育に関する特別講演をお願いした。それに引き続いて、中学・高校・高専・大学での化学教育についての研究報告とパネルディスカッションを行い、理科離れや今後の化学教育を如何に興味のあるものにするか等の討論を行った。また、高校化学グランプリに参加した高校生に、参加した報告を簡単にしてもらったのは新しい試みであり、化学教育を受ける側からの話を今後とも行っていく予定である。

(2) 化学系大学への体験入学は、16年度は夏休み期間中に北海道大学で行った。1日目は、北海道大学の先生方による特別講義で、2日目は大学内の各研究室に分かれて、実験を体験してもらった。参加者は80名程度であり、札幌周辺の高校生が主であるが、北海道内の他地域からの参加も多い。これは北海道大学という知名度によるものと思われる。数年に一度は北海道大学以外でも行っているが、そのときの参加者はさほど多くないことも、その現れである。現在、多くの大学・学部で同時期にオープンユニバーシティが企画されており、そちらへ参加者が流れることと、大学側としては両方に参加すると2重の負担ということとなる。これまでは、オープンユニバーシティのさきがけとして独自に始めた企画ではあったが、内容を含め今後のあり方を再検討する時期に来ていると思われる。

(3) 高校化学クラブ表彰は、高校の化学関連のクラブが行った研究に対して、日本化学会北海道支部の表彰規定に従って奨励賞を授与するものである。例年、北海道高等学校文化連盟の理科研究発表会に参加した高校のうちから優秀な2校を選んでいる。16年度は、札幌北高等学校と、上川高等学校の2校が選ばれ、17年2月に行われた「北海道支部2005年冬季研究発表会」において、15分ずつ受賞講演を行ってもらった。原則として、研究を行った生徒たち自身で発表を行ってもらっているが、しっかりとした発表であった。理科離れが危惧されている昨今であるが、このような表彰を行ってゆくことは、高校における化学クラブ活動の活発化に大きく寄与して

いると考えるものである。

(4) 中学生のための化学実験講座は、毎年夏休みに主として高等専門学校を会場として行っている。16年度は、旭川・函館・苫小牧の3つの高専と、札幌地区として道立理科教育センターにおいて行った。中学生は、実験をする機会がほとんどないので、生徒に化学に関する興味・関心を集めるためには良い機会であるし、高専にとってもよい宣伝にもなっている。地域別には受講者数にばらつきがあるものの、全体で140名以上の参加があった。開催4地区以外からの参加は地理的に難しいので、次に述べる出前講義を中学生向けに行う等の工夫が必要と思われる。

(5) 高校生のための化学(出前講義・実験)は、大学の教員が高等学校に出向いて、高校の授業では教えない実験や講義を行うもので、北海道支部内の高等学校のみならず、小中学校までを対象として、例年4~5件を予定している。一昨年度は日本化学会125周年記念ということで16件以上の講義を行ったが、その反動でもあると思われるが、16年度は、北海道の中心に位置する上川高校で1件しか開催できなかった。担当していただいた室蘭工業大学の先生には、遠路、ご足労をお願いして講義をしていただいたが、受講した生徒たちの反応は非常に良かったときいている。北海道という広い範囲に高校や小中校が点在している上に、大学が札幌等の都市部にしかない現状では、移動に多くの労力を費やさないといけないのが、ネックとなっている。

現在、この出前講義のために、講師のプロフィールや講義内容を支部のホームページに掲載しているが、停年退職された先生も多くなり、新規に、講義をしていただく先生の発掘や、講義内容の更新が急務である。尚、最近IT化が進んでいるとは言えるものの、すべての小中高校の先生方がホームページを見ることができる環境にあるとは限らないので、ITを使った連絡網の整備など、もう少し宣伝に力を入れる必要があると思っている。

以上のように、北海道支部では、初等から高等教育までの化学教育の連携を深めることを目標に、協議会の活動を行っている。この中で、北海道立理科教育センターの協力は強い味方である。この理科教育センターは、道立ということで当然ではあるが小中高校とのパイプが太いので、化学会北海道支部としては、ここの連携が北海道地区の化学普及活動に大きな役割を果たしている。理科センターは、一時期、全国的に設置されていたが、現在では北海道だけに残されているようである。しかし、化学会を含む理系学会と小中高校との連携や、理科教育の普及には必要かつ重要な機関であると考えられるので、是非全国的に復活してもらいたいものである。

中村 博 (北海道大学大学院地球環境科学院)

北海道支部化学教育協議会議長